





皆さん今日は、会長の挨拶をさせていただきます。はじめにお知らせがあります。和田隆雅会員がこの8月末日をもって退会されることになりました。かねてから足の治療を受けておられましたが、やはり良くならないということで退会の申し出があったそうです。残念なことです。

さて本日のお話です。見られた方もおありと思いますが、今年の8月4日NHKスペシャルで「京都百味会知られざる奥座敷の世界」として放映されたことです。京都百味会というのは戦後間もないころ、物資不足でなおかつまがい物が多く出回る中、お互い助け合うため京都の老舗100店が集まって結成されたそうです。懐石料理の「瓢亭」、八つ橋の「聖護院八つ橋総本店」、羊羹の「とらや」などは私でも知っています。

最初は100店あったそうですが現在67店になったとのこと。1名物1店の原則、一切の追加加入を認めないとされ、その店の後を継ぐ若者は青年会に入会する。百味供養、味の会、海外視察などの活動を通じて会員同志の交流を深め、お互いを高めあうことで京都ブランドを創りだしてきたというものです。

しかし最近多くの老舗が厳しい荒波にさらされているとのこと。外国人観光客が増え、流行が変わり、「老舗です名品です」、だけでは人は集まらなくなっているそうです。

現代に通用する客集めができ、採算が取れ、かつ老舗としての伝統ある暖簾を如何に守るかということです。若い当事者は海外への拡大、商品開発といろいろ工夫しておられるようです。

私はこの番組を見て、かつてロータリーで言われていた1業種1人という取り決めが、京都百味会の1名物1店の原則という言葉の響きとよく似ているなど感じました。ロータリー設立当時は各業種から1人を選び連携する、それぞれが老舗というわけではなかったと思いますが閉鎖的というか、仲間うちという感じがします。

ロータリーではこの2019年7月から緩和されていた1業種5人という取り決めもなくなり、その地域でバランスのとれた会員構成にするようにという表現になりました。

あくまで私の感覚ですが、かつてのロータリーのイメージと現在のロータリーのイメージはだいぶ違ってきています。そしてロータリーと京都百味会とは違いますが、社会の価値観やしぐみが増えている中で、何かを模索している点はよく似ていると感じました。





## 金 燕 さん (西条RC奨学生)

こんにちは、西条ロータリクラブの奨学生 金燕です。

現在は広島大学教育学研究科人間生活教育学専修の修士二年生です。人間生活教育学という理解しにくいかもしれませんが、わかりやすく言うと、家庭科教育を専門としており、進路選択に関する研究をしています。

奨学生として選ばれたのは今年の3月で、4月から毎月最初の例会とそれ以外にもさまざまな行事に参加させていただいております。本日はこのように卓話をする貴重な機会を与えてくださってありがとうございます。

まず、本日の流れですが、本日の卓話は二つの部分に分かれていて、一つ目は生活の中から見ると日中両国の文化比較、二つ目はアジア地区家政学会(杭州)に関する報告となっておりますが、日中の文化比較は私が日本で生活するなかで気づいた中国と違うところなどで、二つ目は私が先週参加した学会と学会の開催地である杭州に関する話です。

食事の場面でよく言われることですが、日本では全部食べ切るのが礼儀ですが、中国では少し残しておくのが礼儀だと思われています。しかし中国でもお料理を全部食べ切るのを推奨するようになってきました。これは「光盘行动」という活動ですが、2013年北京のある民間団体が推奨した活動で、お店で食事したあと、料理を残さないか、残したものは持ち帰りするかなどで、「お皿を空にする」という意味の「光盘」です。

そして、初めて日本に来る中国南の人にとって、とても不便に思われることありますが、お店で出される飲み物がほとんど冷たいものだという事です。中国の南では、夏でも暖かい飲み物か常温の飲み物が好まれています。実際私の友達も中国の南側出身で、一緒にお店に行くたびに暖かいお茶を探していました。

お酒を進めるのは、日本と中国で同じく存在する現象のようです。日本では20歳にならないとお酒は飲んではいけないと法律で禁止されています。中国でも2005年からは、未成年(18歳)にはお酒を販売してはいけないと法律で定められていましたが、実際未成年がお酒を飲むのも、買うのも生活ではよく見られます。私自身も、初めてビールを飲んだのは中学生のときでした、何かめでたいことがあって、化学のコンテストみたいなものがあった、それが終わった後、指導して下さった先生と、コンテストに参加したみんなと一緒に食事をしていましたが、その場で先生に勧められ



て、みんなで少し飲みました。日本では想像できないことかもしれませんが、中国ではお正月などでも、子どもにお酒を少し飲ませることがあります。

次は子育てに関するものですが、日本では若いお母さんが何人かの子どもを連れてくるのを飲食店や町中でよく見かけます。しかし中国では、お年寄りが子どもを連れてくる場合が多いです。中国の親は共働きが多いからという理由もありますが、長い間一人っ子政策を続けてきた中国では、家族全員で一人の子どもを育てることになっています。特にお年寄りはお孫を過保護する傾向がありますが、これは子どもの成長に悪い影響を与えることにもなります。その反面、一人の母が複数の子どもを同時に育てることは、母にとっては負担になるかもしれませんが、子どもの成長にはより有益なことではないかとおもいます。

そして子どもの服装に関し、日本に来て驚いたのは、冬なのに子どもの足をこの図で示されていますように、外に出しているということです。中国ではできるだけ子どもに厚着させます。これは冬だけではなく、春や秋など風邪になりやすい季節の変わり目でも同じです。そして、伝統的な中国の親は、体を暖かくした方がいいと思って、時には必要以上の量の服を子どもに着せることもあります。

話は少し変わって、出かけることに関する内容になります。

まず一つ目は、バスや電車、地下鉄のような公共交通機関を利用するとき、日本では席があっても座らない人を良く見ますが、中国では空いている席があるのに、立っている人はほとんどいません。より必要な人のためにという思いやりの心をもっている日本人だからこそできることではないかと思えます。

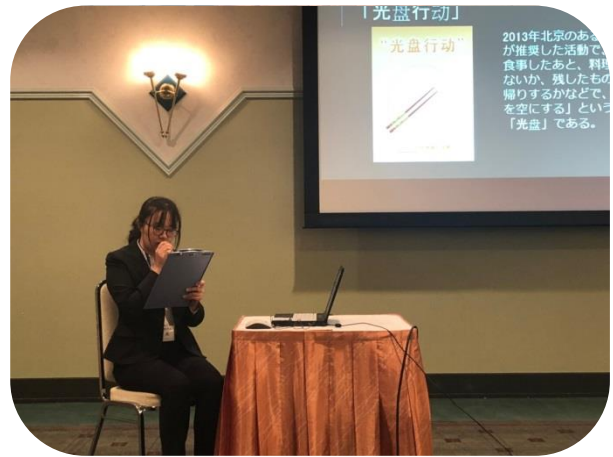
車の運転などの場合も、日本ではお互い譲り合いますが、中国ではみんなが先に行くようにしていて、一回譲るとずっと待つことになるかもしれません。

あと中国は左ハンドルで、右折は赤信号を待つ必要がありません。これはアメリカやヨーロッパの国々と同様です。

車のクラクションに関して、日本では緊急事態でしか鳴らさないが、中国ではよく鳴らします。私自身の経験から言いますと、私が日本で生活してもうすぐ三年になりますが、この三年間で聞いたクラクションを鳴らした回数は、中国で一日に聞く回数よりも少ないです。

日本にはゴミ箱が少ないから最初に来たときはとても不便でした。駅には必ずありますが、町の中にはあまりないし、そしてとくに掃除する人もないのにいつもきれいなのは今も不思議に思っています。中国ではゴミ箱もたくさんあって、掃除する人もいますが、なかなかきれいにならないのが実情です。

次はアジア地区家政学会に関する報告ですが、今回のアラへは先週の月曜日(19日)から金曜日(23日)まで、中国浙江省の杭州市で開かれました。ここにいる皆さんの中で、杭州市に行ったことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、私は今回初めて杭



州に行ってみましたので、学会に参加する以外にも、少し観光もしてまいりました。

アジア地区家政学会はアラヘと呼ばれており、ARAHEとはAsian Regional Association of Home Economics International Congressの略称で、二年に一回開催されるアジア地区家政学会です。前は2017年東京で開催されて、今年は中国浙江省の杭州市で開かれました。そして今回は、マレーシアで主催することを今回の大会で発表しました。

今年のARAHEは現代社会でだんだん増していく高齢化をテーマに、家族全員の健康な生活や社会の持続可能な発展を目標として、高齢化に伴う家庭内の役割の変化や福祉施設、介護支援などに関する討論を行いました。

初日の開幕式では、国際家政学会の会長、アジア家政学会の会長や主催者側の挨拶、そして中国茶のパフォーマンス、中国伝統のダンスや楽器の演奏などがありました。そのあとは本学会のメインとなるキーノート発表を、各国の代表者が行いました。

私は今回が初めての学会発表でしたので、ポスター発表をしました。ポスター発表は主に休憩時間を利用して行っていました。興味があるポスターを自由に見学し、多様な研究者と意見交換することができて、大変勉強になりました。発表内容は、現在までの研究結果を一部取り上げたもので、主に中国の大学生がどのように現在の大学と学部を選択することになったかに関する内容でした。

開催地である杭州市は中国でも経済が最も発展している地域である東海岸地域に位置しており、浙江省の省人民政府の所在地として、中国八大古都の一であり、国家歴史文化名城に指定されています。その景色の美しさは、「上に天国あり、下に蘇州・杭州あり。(上有天堂、下有蘇杭。)」とたたえられています。市中心部の西には世界遺産の西湖という湖があり、国の内外より多くの観光客が訪れています。

西湖には十か所の有名な景色があって、通常「西湖十景」とよばれています。西湖はあまりにも広く、十景を全て見るには3日はかかるといわれました。今回は主に「三潭印月(さんたんいんげつ)」と「雷峰夕照(らいほうせきしょう)」を見ましたので、少し紹介したいと思います。

「三潭印月」は船に乗ってある特定の位置まで行くと、湖に三つの月が映っているように見えるということから来た名前です。昔は月見する名所でした。湖の真ん中に立っている石造のものは、杭州のシンボルのようなもので、学会のアイコンでも使われているし、中国の一元紙幣の裏面にもものせています。

「雷峰夕照(らいほうせきしょう)」はこの景色も美しいですが、雷峰塔自体を纏うおとぎ話の方が有名で、中国人はほとんどみんな知っています。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、内容を簡単に説明すると、人間になった白蛇の妖怪が、人間の男性と恋に落ちましたが、それが神には許されなく、白蛇の妖怪を雷峰塔に封印してしまうという話です。具体的な話はもっと長く、中国ではドラマにもなっているので、興味がある方はぜひ見てみてください。

ご清聴、ありがとうございました。



★お客様の紹介

・金燕さん(西条RC奨学生)



41年連続100%例会出席  
表彰される小早川会長

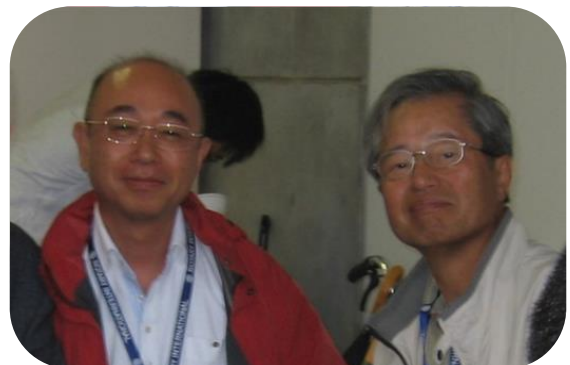


幹事報告する菅生幹事

スマイル・ボックス (Smile Box) 8月29日例会出宝分

本例会:8,000円  
(今年度累計金額 130,000円)

★佐々木会員:カープの優勝は諦めました。1年間、有り難うございました。あとは、クライマックスで優勝するのみです。



2009年5月17日 野球観戦家族例会



会場監督(出席)委員会  
高原委員長

スマイル・ボックスとは、例会場で会員が自由意思で善意の寄付金を入れる箱(ボックス)です。会員、家族、事業場等の慶び事、お祝い事をスマイルしながら披露し、喜びを分かち合い、又失敗したり、迷惑をかけた時もユーモアたっぷりに苦笑し、例会を賑わせて親睦を増進します。集まったお金は、西条ロータリークラブ奨学金として使われますので、スマイル・ボックスへの出宝、宜しくお願いします。

## 出席報告 (8月29日例会)

例会出席は正会員の最も基本的な責務で、会員がお互いに胸襟を開いて親交を深め、奉仕を語り合う機会です。会員は、クラブで定めた前半・後半の6ヶ月間に、自己の所属クラブでは、それぞれ30%以上出席し、且つ、年間通算の出席率は出席補填を含めて50%以上であることが必要です。また、例会は概ね1時間ですが、少なくともその60%は会場に止まる義務があります。

- ◆会員数 35名
- ◆出席者 27名
- ◆来訪者 1名
- ◆欠席者 7名
- ◆免除者 1名
- ◆8月8日の欠席者 12名
- ◆メイクアップ 12名
- ★出席率 100%
- ★通算出席率 100%

## ロータリー特別月間 Special Month in Rotary

### 9月：「基本的教育と識字率の向上月間」 (Basic Education and Literacy Month)

地域社会で基本的教育を普及し、識字能力を高めるためのプログラムを支援し、地域社会の参加を促進、成人識字率の向上、教育における男女格差を減らすための活動、基本的教育と識字率向上に関連した仕事に従事することを旨とする専門職業人のための奨学金支援を強調する月間である。

### 9月：「ロータリーの友月間」 (Rotary-no-tomo Month)

雑誌月間の廃止に伴い2015-16年度より日本独自に、9月を「ロータリーの友月間」とした。ロータリー地域雑誌と呼ばれる「友」誌は、全世界に31誌ある地域雑誌でその目的は地域の特徴ある活動をその地域のロータリアンが共有することである。また、『The Rotarian』の中からいくつかの記事をすべての地域雑誌にも掲載しているのは、全世界のロータリアンが共通して知っておかなければならないためである。会員の義務でもある雑誌の購読や記事紹介を会員に強調する月間でもある。

## 会員 徒然記 テーマ:「夏の思い出エピソード」



### パロゾンの絵

2018年4月ブータンに行きました。ブータンでは少し大きな町にはゾンという、かつての砦があります。現在多くはそれを県庁などに使っています。これはブータン唯一の国際空港がありますパロという町のパロゾンです。写真を撮ってきて今年描いたものです。(小早川 清)

スイートコーンの収穫体験に行きました！採れたてのコーンは生でも甘くて美味しかったです！  
(久留島 英樹)





辛抱人と揶揄されながら乗り続けた愛車が、一昨日、遂に引退(買替え)となりました。家族の思い出が満載なので少々寂しいです。  
(三名田 多佳男)



今年も仏教壮年会、仏教婦人会のお世話により「西品寺夏休み子どものつどい」を開催しました。今年は子どもと父兄の方合わせて 100 人の参加がありました。初めに本堂で少しだけ法話をして、あとは紙芝居、歌、ゲームをし、境内ではソーメン流し、スイカ割り、かき氷、綿菓子、ヨーヨー釣りなど、いっぱい遊んで、楽しい一日を過ごしてもらえたのではと思っています。(平賀 弥泉)



時代が平成から令和に替わった記念に、法要山門幕を新調しました。  
(廣幡 勝祐)

## 西条ロータリークラブ

創立 1964年5月11日 例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分

事務局 東広島商工会議所会館3F 東広島市西条中央7-23-35

TEL(082)420-0320 FAX(082)420-0319

西条RC公式ウェブサイト <http://www.saijo-rc.jp> メール [saijorc@eagle.ocn.ne.jp](mailto:saijorc@eagle.ocn.ne.jp)

会長 小早川 清 副会長 金好 康隆 幹事 菅生 一郎 副幹事 森 哲也